

## 「対話的な学び」の視点の充実に向けて（体育科・保健体育科）

感染症対策において、体育は特に活動に制限がかかります。そのような中で、「対話的な学び」の実現に向けてどのようなことができると思いますか。

では、体育科・保健体育科における「対話的な学び」の視点を確認してみましょう。



体育科・保健体育科における「対話的な学び」の視点とは、

運動や健康についての課題の解決に向けて、児童生徒が他者（書物等を含む）との対話を通して、自己の思考を広げ深めていく学びの過程と捉えられる。自他の運動や健康についての課題の解決を目指して、協働的な学習を重視するものである。

中央教育審議会答申（平成28年12月）より（※太字、下線等は加筆）

直接相手と話すことのみが「対話『的』」ではありません。

子どもたちが課題の解決、つまり本時のねらいに向けて、他者や書物等との対話や関わりを通して、様々な考えに触れ自分の考えを広げ、自己内対話により考えを深めるように活動することが大切です。

また、活動が制限された中でも、準備や片付け、活動中のアドバイス等において、ジェスチャーやサイン、文字の活用等の様々な工夫や教師の意図的な関わりにより、子どもたちが学び合う、協働的な学習を重視した授業改善ができるのではないのでしょうか。



### 「対話的な学び」の視点の充実に向けてのポイント

- ☆ 課題の解決に向けて  
→ 本時のねらいを具体的に示し、子どもたちが課題に向かう意欲を高められるようにしましょう。
- ☆ 他者（書物等を含む）との対話  
→ 子ども同士や教職員、地域の方、書物や先哲等との関わりを持たせましょう。
- ☆ 自己の思考を広げ深めていく  
→ 他者の様々な考えに触れることで考えを広げ、自己内対話により考えを深められるようにしましょう。
- ☆ 協働的な学習  
→ 自他の運動や健康について課題の解決を目指して、教師の意図的な関わりにより、子どもたちの学びをつなぎ、学び合いを意識させましょう。

体育・健康・安全に対する考えを広げ、日常生活で生かせる力を育てることが大切です。生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を目指していきましょう。



## 体育の例

「対話的な学び」の実現に向けた授業改善の例を考えていきましょう。



○：「対話的な学び」の視点に生かせる場面の例 ◆：授業改善の具体例 □：教師の声かけの例

### <導入>

体をしっかりほぐすぞ。



○準備運動等を通して、自らの体の調子を確認しているとき。

◆本時のねらいに関わる声かけを意図的に行う。

□「タタタッと走れるように体をほぐそう。」「ボールを投げる準備をしていこうね。」

### <本時のねらいの確認>

○ねらいに対して、何をどこまでできるようにするかなどの見通しを立てているとき。

◆運動の特性や能力等に応じた目標設定ができるよう具体的に助言する。

□「今日は△△に挑戦してみよう。」「今日は○○のような走り方をするよ。」「○○の動きを基にして、自分の動きを考えていこう。」

相手をかかわしてボールを取るにはどうしますか。



相手をよく見るわ。

ボールをよく見るぞ!

### <学び合う活動>

○自他の活動について評価（助言）することを通して、自らの考えを広げ深めるとき。

◆ねらいにあった動きを紹介し、どこがよいのかを皆で考えさせることを通して、イメージを共有させる。

□「○○さんの▽▽が良かったけれど、なぜかな。」「まねしたい動きはどこかな。」「みんなで一緒に動くと分かるよ。」「隣同士で比べてみよう。」「みんなより長く動き続けられるのは、どうしてかな。」



自分の足の動きが分かったぞ。



○模範となる動きを見ることを通して、自らの動きを修正しようとするとき。

◆タブレット PC で自分の動きを見たり、友達の動きと比べたりすることを通して、修正に生かせるようにする。

□「なぜあのように足を動かすといいのだろうね。」「あなたと同じところはどこだったかな。」「バーンという踏み切り音がしたのはなぜかな。」

蹴る方向を見ているね。まねしよう。



うでが、しっかりのびているからかっこいいんだね。

○運動やスポーツに対して、多様な関わりや楽しみ方を知るとき。

◆応援や準備の大切さを確認することを通して、運動やスポーツの持つ価値を共有できるようにする。

□「応援があると、動きが変わるのはなぜかな。」「みんなが安全に行うことができるのはなぜかな。」「なぜ審判が必要なのかな。」「このスポーツは何から始まったか知っているかな。」「家の人と一緒にできそうだね。」

### <まとめ・振り返り>

○授業を通して、何ができるようになったか、日常生活や次時にどう生かすかなど、自分を振り返るとき。

◆振り返りの時間に、友達からのアドバイス等を参考にしながら、次時の課題を立てられるようにする。

□「○○さんのアドバイスがよかったね。」「□□は△△にも生かせそうだね。」「次に挑戦したいことは何かな。」「動きの秘密が分かったね。」「いい表情で活動していましたね。」



次は、教えてもらった○○をやってみたい。



授業では、子どもたちが「体育の見方・考え方」を働かせながら、運動やスポーツへの多様な関わり方も意識できるよう、教師の意図的な関わりや場の工夫等により、子どもたちの協働的な学習を充実させていきましょう。

## 保健の例

○：「対話的な学び」の視点に生かせる場面の例 ◆：授業改善の具体例 □：教師の声かけの例

### <導入>

○課題の把握と日常生活における実態から、問題を見いだそうとするとき。

◆実生活に即した情報を扱うことで、自分事という意識を高める。

□「コロナウイルスとインフルエンザの予防法は同じである。○か×か。」

「毎日○○をしているのは、どうしてだろう。」「感染しない人はいるのかな。」

「新聞にこのようなことが載っていました。」



### <本時のねらいの確認>

○課題の本質を見つけ、本時のねらいを立てるとき。

◆現在の状況を確認し、問題点を整理する。

□「では、感染したときどうすればいいのかな。」「○○をしないしていると、どうなるのだろう。」

「なぜ3密にならないように『新しい生活様式』を続けているのだろう。」

病気は、どのようにうつるのかな？

### <学び合う活動>

○課題解決に向けて仮説を考へるとき。

◆現在持っている情報を批判的に検証する。

□「Cさんは◇に対して○という考えですね。どのような理由からかな。」

「それは、どこからの情報かな。」「他の情報はあるかな。」

○考えた仮説を、聞く、調べる、話し合う、実習等で確かめるとき。

◆模造紙や付箋紙、タブレット、フレームワーク、文字や写真等を使って、様々な意見を可視化し、考えを深められるようにする。

□「この資料が伝えたいことは何かな。」「この図でまとめると分かりやすくなるね。」

「実際にはこのように対応しているね。」「なぜ専門家はこのように考えているのだらうね。」「こういう対応をされたらどう思うかな。自分だったら……。」

「このような考え方もありますが、どう思いますか。」



○○をすれば、大丈夫かもしれない。



その考えは知らなかったけど、正しいの？調べてみよう。

### <まとめ・振り返り>

○課題に対して学習を振り返り、日常生活につなげるとき。

◆学んだことを日常生活での課題解決に生かすため、今後どのように取り組んでいくか考える時間を取る。

□「新しく知ることができたのは、どんなことかな。」「授業のはじめと今では、どのように考えが変わったかな。」「どんなときに、学んだことを活用できるかな。」

「実践するときに注意することは何かな。」「最新の情報にも気を付けよう。」



なるほど。帰ったら試してみよう。これで安心だね。



保健は人権に関わる内容が多くあります。内容を事前によく確認し、人権意識を高める指導も進めていきましょう。また、教育活動全体を通じて指導を行えるよう、「保健の見方・考え方」を意識し、授業を行うようにしていきましょう。



「対話的な学び」の視点からの授業改善では、対話などの活動そのものを取り入れることが目的ではありません。知識や技能の定着とともに、物事を深く理解するために、子ども同士や、教職員等と子どもの対話等を通して、自らの考えを広げたり深めたりしていけるようにすることが大切です。

「活動あって学びなし」にならないよう、注意しましょう。

**子どもたちの学び合いがあってこそ、「対話的な学び」です！**

総合教育センター「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善【実践編】平成31(2019)年より

